

みなと元町

タウンニュース

No.
331

発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

街の賑わいを支える

神戸市経済観光局長 山本 泰生



みなと元町タウン協議会の皆様におかれましては、元町周辺地域の活力と魅力向上を目指して、長きにわたり地域が

連携・協力して、さまざまな活動に取り組んでこられましたことに心から敬意を表します。また、平素から元町商店街の皆さまを中心に本市経済観光行政にご協力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

神戸市内には、全体で約67,000の事業所があり、そのうち、中央区には、約22,000の事業所があります。最も多いのが「宿泊・飲食サービス」、次に「卸売・小売」と続き、このふたつで約半分を占めますが、ほかに、不動産、学術研究サービス等も多く、これは都心部ならではの特徴と言えます。歴史的に港として発展してきた背景から、貿易関係や、外国文化の流入に関連した洋服・家具・食といった生活産業の広がりは、ここ元町エリアでみられる神戸らしい経済的一面です。

元町周辺地域は、多様な店舗が集積する神戸を代表する商業地域で、市民、観光客を問わず多くの買い物客が訪れています。特に近年は、地域内や周辺にマンションが建ち、商圏人口が大きく増加していることから、生活の場としての新たなニーズ

も高まっています。そういった中でも、商店街は地域コミュニティの核としても、より重要になってくるものと思われまます。今後とも地域全体でまちの賑わいづくりに取り組んでいただきたいと思います。市としても、引き続きさまざまな形で支援をしてまいります。

一方、中小企業へも様々な支援を行っています。最近では、事業承継にも力を入れ、新たな承継者はもちろん、2代目へのスムーズな跡継ぎ承継へのサポートも行っています。これまで同様、これからも、変わらず神戸の経済を支えていただくことを期待しています。

また、神戸市は、農漁業地域と都市地域が近接しており新鮮な食材を手に入れやすいことや、歴史的な貿易港として世界の食文化の影響を受けてきたことから、そのポテンシャルを活かし、食を軸とした新たな都市戦略として「食都神戸」を推進しています。「EAT LOCAL KOBE」のホームページやSNSでは、神戸市内で生産されている季節の食材を紹介し、だれが作っているのか、どこで買えるのかをわかりやすく発信し、市民・生産者・レストランのシェフのみなさまと一緒に神戸の地産地消を進めています。

実際に神戸各地から参加している生産者との会話を楽しみながら野菜や果物、加工品を手にとることができるファーマーズマーケットを東遊園地で毎週土曜の朝に開催しています。平成29年度からは、神戸まわりの時期に、大丸神戸店の東側道

路でも開催し好評いただいております。この動きを市内の他の地域にも拡大していきたいと考えています。

今後は、神戸で生まれた食材の魅力はもちろん、元町・三宮で育まれてきた港町・神戸の多様で豊かな食文化も、国内だけではなく海外にも広く発信してまいります。

今年7月からは東京2020オリンピック・パラリンピックが始まります。増加する観光客、特に近年日本を多く訪れる外国人観光客(インバウンド)に神戸を訪れていただき、できるだけ長い時間を滞在していただけるよう、(一財)神戸観光局とともに、観光客誘致に取り組んでおります。

昨年のラグビーワールドカップ(RWC)2019TM、来年のワールドマスターズゲームズ2021関西及び神戸2021世界パラ陸上競技選手権大会と、世界的なスポーツ大会が続く「ゴールデンスポーツイヤーズ」は、海外の方に神戸を知っていただく絶好の機会でもありますので、みなと元町タウン協議会の皆さまと盛り上げていきたいと思っています。

今後とも神戸の都心地域の中核として、元町商店街、乙仲通、南京町等のそれぞれのエリアの個性を発揮していただき、みなと元町タウン協議会エリア全体の魅力を高めていく取り組みに一層ご尽力いただきますようお願いするとともに、皆様のより一層のご活躍とご発展をお祈りいたします。

企業会員紹介②

株式会社 神明ホールディングス



代表取締役社長 藤尾 益雄

『おいしいお米はあかふじ米』でお馴染みの「神明」です。現在、神明ホールディングスは創業118年目になり、当時から変わらず神戸に根を張り、みなさまの食卓を支えるべく活動しています。お米の生産と流通は時代とともに変化し、女性の社会進出、共働き世帯の増加、食の多様化など、ライフスタイルは変化が進み、主食であるお米の消費が減少し、ご家庭でお米を炊飯して食卓を囲む機会が減り、業界では消費者のお米離れが叫ばれています。これらの課題を解決するため、当社では、お米の生産から販売のみならず、みなさまの食卓までのサプライチェーンを手がけ、食のプラットフォームになることをめざしています。

国内においては、お米だけでなく、「無菌包装米飯」、健康を意識した「簡単おいしい玄米」、「米ぬか油」グループ企業に青果・水産加工・炊飯惣菜・乾麺を取り扱う企業が加わり、多彩な商品を取り揃えてみなさまの食を充実させる取り組みをしています。

海外においては、日本食ブームが起り、日本食を代表する和食や寿司で利用されるお米と文化とあわせ、日本産のお米の輸出を早い時期より積極的に推進し、海外でもお米を食べる市場つくりと開拓に力を注いでいます。

また、お米の生産現場である日本の農業においては、農業就業者の高齢化、自然災害によって農業をリタイヤする方が増え、農業就業者は減少傾向です。この日



(上)神明別館、
(下)お米のプロが握るおにぎり専門店「五穀豊穡米処 穂(みのり)」

神戸元町商店街 楽市楽座 情報 3月

◇元町1番街商店街振興組合 TEL331-7850

水曜日 3月18日(水)11時～19時

◇風月堂ホール(有料) TEL321-5555

第499回ももたち寄席「恋雅亭」3月10日(火)

桂 雀太 露の都 桂 小枝

月亭 八方 桂小文枝(きん枝 改め 四代)

前売券:2月11日より神戸風月堂で発売



神戸県民センターは、神戸をもっと住みやすく、より魅力的なまちにするため集まってきた知恵をだしあつてもらおうと「神戸地域ビジョン委員会」を開設し、2年間の任期を前提にそれぞれの活動に取り組んでいる。その中のひとつに16名のメンバーで構成する「みなと元町おしゃれグループ」がある。元町商店街に興味をもつ人たちが集まりまちを探索、まち歩き案内や活性化のためのツールとして商店街マップの制作などに取り組んでこられた。その中のひとつに、アンケートとインタビューによりまとめられたレポート「元町商店街に対する評価」がある。数ある項目の中で目にとまったのが「元町らしさについて」の設問に対する回答だ。「情緒溢れる港町」、「歴史的雰囲気漂っている」、「高齢者の大人のまち」に加え、こんな回答が「真面目な日本物産国」。

編集後記

この活動に取り組んでいる。その中のひとつに16名のメンバーで構成する「みなと元町おしゃれグループ」がある。元町商店街に興味をもつ人たちが集まりまちを探索、まち歩き案内や活性化のためのツールとして商店街マップの制作などに取り組んでこられた。その中のひとつに、アンケートとインタビューによりまとめられたレポート「元町商店街に対する評価」がある。数ある項目の中で目にとまったのが「元町らしさについて」の設問に対する回答だ。「情緒溢れる港町」、「歴史的雰囲気漂っている」、「高齢者の大人のまち」に加え、こんな回答が「真面目な日本物産国」。

栄町通クリーン作戦

栄町通まちづくり委員会は、2月14日(金)10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(元栄海三丁目協和会)奈良山喬一、(神戸市)川口雄也、(広島銀行)宇田興子、(兵庫県信用組合)豊明子・中村公亮・仲川雅夫・亀田仁、(㈱KKテクノ)松本美紀、(神明倉庫㈱)藤尾憲弘・十時実希、(大一産業㈱)山部浩、(㈱イーエスプランニング)大澤優希、(三鈴マシナリー㈱)稲岡千硯、(佐野運輸㈱)志賀俊之・末松明、(走水神社)児嶋英毅、(新光明飾)中川俊・西村友博・大森貴美子、(佐田野不動産㈱)佐田野宏之、以上20名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



海という名の本屋が消えた (76)

平野義昌

ブラジル移民(その1)

JR元町駅東口から「鯉川筋」を北へ歩く。緩やかな坂道が次第に勾配を増す。広い自動車道路(山手幹線)を越えると道幅は狭くなり、坂はさらに急になる。突き当たりは「山本通」3丁目・4丁目、北側の山が「諏訪山」。東に行けばトア・ロード北端「神戸外国倶楽部」、昔の「トア・ホテル」跡である。西に「神戸市立海外移住と文化の交流センター」(写真)が見える。前身は1928(昭和3)年建設された「国立移民収容所」。71(昭和46)年に閉鎖されるまで約25万人の海外移住者がここから旅立った。ゆえにこの坂を「移住坂」と呼ぶ人もいる。註1

今回は海事史研究から日本人海外移住の歴史を見ておく。註2

始まりは江戸時代末期のハワイ移住である。横浜駐在のハワイ領事が口入れ屋を通じてサトウキビ農園労働者を雇い入れた。江戸幕府が旅券を発行したのだが、明治新政府は渡航を認めなかった。雇われた人たちは強行渡航したものの、現地の環境と過酷な労働になじめず、政府に救済を嘆願した。

当初は移民というより海外出稼ぎ労働だった。アラフラ海真珠取り、ニューカレドニア鉱山、フィリピン道路建設、アメリカ鉄道工事など、アジア人は安い労働力として歓迎されたが、黄禍論が高まり、次第に迫害される。

1874(明治17)年、ハワイ官約移民(現地政府との協約による組織的移民)開始。その後、北米や豪州に移民が始まり、ハワイ移民の成功例もあり、渡航者は増加する。91(明治24)年、民間事業に移行、移民会社が誕生する。96(明治29)年、政府は法整備を行い(航海奨励法——日本船海外航路就航助成、造船奨励法——造船業振興)、船会社にとって強力な援助になった。

82(明治15)年、アメリカが中国人移民を排斥する法律を制定し、日本人がさらに進出する。85(明治18)年、アメリカは契約労働者移住を禁止し、個人の意思による渡航を原則とした。「雇用主と契約し一定期間を奴隷のように働く出稼ぎは、非人道的であると排除された」。註3

日本人迫害も始まる。98(明治31)年、アメリカがハワイを併合し、ハワイでの私的移民も廃止になった。ハワイやメキシコで働いてアメリカ本土に渡航する方法が使われたが、1907(明治40)年にはそれも禁止。24(大正13)年には「排日移民法」が制定され、日本人移民はアメリカに入国できなくなる。

移住新天地になったのは南米のペルーやブラジル。奴隷解放で労働力が不足していた。

そもそもなぜ日本人は海外移住しなければならなかったのか。「海外雄飛」「新天地」と言えば聞こえはよい。日清戦争勝利で青年層が海外に視野を広げ、渡航希望者が増加したことは事実である。しかし、日露戦争後は勝利にもかかわらず、不況に陥った。大正末期の人口7千万人、年70万人ずつ増加と予測されていた。政府の人口膨張対策は海外移住か工業化推進だが、開国以来の移民総数は60万人、工業化はまだ進まない。〈……選択の問題となって移住に力を入れざるを得なかった。〉註4

国際交通の観点で見ると。交通手段の主役は定期客船だった。「その定期客船のほとんどは移民船」

(註3)である。客船の建造・運航は多額の資金と労働力が必要な事業。継続的な大量輸送需要と国家の支援が不可欠だ。「移民」促進は国家と企業の目的が一致する事業。少数の一等客より数多の三等客、なのだ。

移民船は「人間を積む貨物船」(註3)と言われる。奴隷貿易が連想されるが、移民運送も粗悪な船によって劣悪な環境で運航していた。現地の自然環境と労働も悲惨なものだっただろう。日本政府は法整備を急いだ。日清戦争後に「移民保護法」(国費による補助)成立、日露戦争後、同法に「移民運送船」規制が設けられた。実際の運用は大正末期、ブラジル移民が国策となってからのこと。

1897(明治30)年に日本とブラジルは修好通商条約を批准した。すぐに日本人移住計画があったが、コーヒー価格暴落により中止になった。外交官は政府に移住すべきではないと報告した。1905(明治38)年、駐ブラジル公使・杉村濬(ふかし)が移民認めるべし、と提言。翌年皇国殖民会社・水野龍(りょう)(補註1)が現地に杉村を訪ね、サンパウロ州のコーヒー農園を調査し、州政府と交渉。07(明治40)年、3年間3000人の移住入国が決まった。移民対象者は原則12歳以上45歳以下の農民で3～10人の家族、单身者除外。州政府が船賃補助(10英ポンド、うち4ポンドは貸付)。水野は移民募集に、契約移民160余家族781人(男600、女181)、自由移民10人が集まった。偽装家族も多くいた。船賃補助を受けても自己負担60円に諸経費70円超、郷里から出発地(横浜・神戸)までの交通費もある。

〈応募したのは、渡航にはまとまった金が必要とされたため、借金することが可能な多少の資産のある人たちであった。府県別には沖縄県325人、鹿児島県172人、熊本県78人、福島県77人、広島県42人といった順序で、農民でない者が多数を占め、元の職業が警部、巡査、教師、僧侶、車掌、活版職工といった人も混ざっていた。〉註2

1908(明治41)年4月28日、ブラジル移民が神戸港からサントスに向け出発した。「小金をためて四～五年したら帰りたいという出稼ぎ移民の群れ」(註3)だった。船は東洋汽船の笠戸丸(補註2)。まだ神戸港には突堤がなく、移民たちは沖まで舳で出て乗り移った。航路は東シナ海～南シナ海～インド洋～大西洋、52日間の旅。寄港地はシンガポールとケープタウンのみ。船室は二段ベッドが並ぶ大部屋、食事は麦飯・魚・漬物、たまに味噌汁。台湾海峡通過後、暑さ対策でデッキに日よけテントが張られ、南シナ海ではカンバス製のプールが設置された。5月15日赤道祭開催、各県代表が民謡、踊り、詩吟、仮装など芸を披露して宴会。のちの移民船でも恒例イベントになった。サントス到着3日前の6月15日、船内で事件が起きる。送別の宴会で酔った火夫が「水野を殺す」と暴れ、制止する火夫長を刺した(上陸後死亡)。トラブルの原因は、移民会社から慣例のチップがなかったこと。水野は金策に迫られ、チップを出せなかった。また、水野も彼らの不満を感じて警戒し、夜間に婦女子が船室から出ることを禁止した。移民たちにも動揺が広がっていた。火夫はこれも侮辱と感じ、怒りが増幅していた。

水野とサンパウロ州との契約では、第1回到着はコーヒー収穫作業に合わせ08年5月だった。ところ

が、募集期間が短く定員に満たず、神戸出港は16日遅れた(横浜発4月8日)。水野は国に納入する保証金10万円(移民保護法による)満額を工面できず、笠戸丸の滞船料(1日500円)、移民たちの宿泊費(1日400円)も16日分かかる。水野は移民の携帯金を預かり流用、総額7675円(サントスの収容所で返却する約束だったが、1年後になっても5700円未返却)。水野は借金などで8万円を調達して日本政府に泣きつき、政府もサンパウロ州との関係に配慮して承認した。〈移民会社が移民を、そして国が移民会社を搾取するという出稼ぎ移民時代の実態と国の姿勢が、笠戸丸移民ではどぎついかたちで表出している。〉註3

皇国殖民会社が破綻し、竹村殖民商會が引き継ぎ、10(明治43)年5月第2回出港。東洋移民会社も加わり、14(大正3)年州政府の船賃助成中止まで移民を送った。移民会社はブラジル移民組合を結成して州政府と交渉、17(大正6)年助成が復活し、日本郵船と大阪商船が南米航路を開設した。移民会社は統合して海外興業会社が誕生し、国策機関になる。22(大正11)年、または州政府が助成を打ち切ると、海外興業会社は日本政府に渡航費助成を働きかけた。政府は関東大震災罹災家族のブラジル移民費用を全額補助したことから、これを事例に制度化。船賃200円、移民会社渡航手数料35円を負担することになった。〈……北米移民が完封され、ブラジル移民は渡航費用の面で動きにくいとあっては、ここは日本政府が開關するしかなかった〉(註3)。

註1 楠本利夫『移住坂 神戸海外移住史案内』セルポート、2004年
註2 WEB国立国会図書館「ブラジル移民の100年」
https://www.ndl.go.jp/brasil/sl/sl_1.html
註3 山田勉生『船にみる日本人移民史 笠戸丸からクルーズ客船へ』中公新書、1998年
註4 黒田公男著・出版『論集神戸移民収容所』、2001年



補註1 水野は本稿「喫茶店」の章で登場。移民会社経営に失敗したが、1910年サンパウロ州とコーヒー宣伝に関する契約を締結。コーヒー無償提供(当時の輸入量の7倍)を受け、日本・アジアでの宣伝と販路拡張を任された。10年喫茶店「カフェバウリスタ」を創業し、全国に展開していった(前掲WEB「ブラジル移民の100年」より)。高級店はコーヒー1杯15銭だった時代に5銭で提供した。
補註2 もとは1900年進水したイギリス貨客船「ボトン」。輸送需要減少ですぐにロシアに売却。病院船に改装され「カザン」。日露戦争で日本軍が接収。「カザン」の音から「笠戸丸」に改名。06年東洋汽船が借用し、極東～南米西岸航路に就航。一時休航していたが、ブラジル移民船第1号を勤めた。09年軍から大阪商船に払い下げられ、神戸川崎造船所で大改装し、台湾航路・南米航路に就航。30年大阪の船主に売却され、漁業船になる。その後、何度も売却され、最後は蟹工船。45(昭和20)年カムチャッカ沖でソ連機に爆撃され沈没した。歌謡曲「石狩挽歌」(なかにし礼作詞、浜圭介作曲、北原ミレイ歌唱、1975年)に漁船時代の笠戸丸が歌われている(山田前掲書より)。

出来事ファイル (No.20-3)

■元町三丁目で地酒飲みくらべ

元町通3丁目商店街で、2月14(金)・15(土)の両日、兵庫県酒米振興会・JA全農兵庫の主催で「酒米で味わう地酒飲み比べ」イベントが開かれた。フクノハナ・五百万石・兵庫北錦・山田錦・白鶴錦・兵庫夢錦・兵庫錦など兵庫県内32の蔵から54銘柄が出品、神戸風月堂の「こだわりおでん」やSABAR神戸元町店のつくね串焼きセットなど、豪華なあてを添え物に、日本酒ファンを喜ばせた。(14日16時・15日13時から)



□生田祭参加者募集中!

令和2年4月15日(水)に行われる生田神社の「生田祭」。今年は元町商店街が当番役に当っており、翌16日(木)には9時から元町通・栄町通・海岸通・波止場地区を巡行する神幸祭(おわたり)への参加者を募集している。募集するのは男神輿(みこし)・女神輿の担ぎ手とお稚児さん。参加ご希望の方は、生田神社の生田祭係(☎078-321-3851)まで。



■好評 飲食店ランチマップ

神戸地域ビジョン委員会の一翼を担う「みなと元町おしゃれ」グループは、元町商店街の西部に立地する飲食店のランチマップを作成、配布した。後日、取り上げた店舗を訪問、マップへの反応などについてヒヤリング。マップ作成への感謝、来店者によるPR効果など好意的な声が多く、1月14日、県民交流室で開いたグループ会議では、各店公平な取扱いが好意的な評価につながった、と。



□読者プレゼント

春季特別展「あんびるやすこ作品展」

「なんでも魔女商会」シリーズ(岩崎書店)をはじめ、小学生の女の子から絶大な人気を集めるあんびるやすこの作品の魅力を、鮮やかな色彩の原画約100点と、制作スケッチや作家愛用の道具などの展示で紹介します。

鑑賞ご希望の方は、住所、氏名、年齢、本紙へのひと言を添えて編集部まで。先着順で5組の方にペア招待券をお送りします。

期間:2020年4月4日(土)～5月17日(日)
会場:明石市立文化博物館



©2020 Yasuko Ambiru

■時空・港神戸

2月6日(木)～11日(火)まで、「時空・港神戸」展がまちづくり会館地下ギャラリーで開催された。第4弾となる今回の展示は「この街のココが好き」がテーマ。床面に心象を具象化した大きな作品が横たわるほか、壁面には、みなと神戸の心象をカタチにした作品や、これが見慣れた神戸のまち?とおもわせるような視覚の作品群が並び、みる人の興味をさそっていた。



■グリーン作戦

2月5日(水)、神戸駅東地区クリーンチームは、ハーバーロードから元町通7丁目を含む神戸クリスタルタワーまでの一帯を対象にグリーン作戦を実施した。さらに広場担当のネットヨタチームは、植込みの中に大量のごみが隠されていることから協議会の集まりで神戸市に現状を報告、対応策の検討をお願いした。



■もとまち寄席恋雅亭 閉館



神戸風月堂がビルを建て直されたとき、当時の社長さんが「神戸で落語会したい」。藤田まことさんと相談されたら、梅田コマ劇場で同じ舞台に立つてはつた松鶴師匠から落語プロデュサーの楠本喬章さんに頼んだら、といわれ昭和53年から始まったのが恋雅亭です。恋雅亭の名前も楠本さんです。私は高校生時代、落語研究会を立ち上げるほど落語好きで、福原にお住いの楠本さんが、席60人規模で月5回公演の柳笑亭を立ち上げられたとき、いつも顔をだしていた縁でおぼえられ、48年2月からピラ張りを手伝うようになって、楠本さんと親しかったんです。その楠本さんが平成6年5月急に亡くなった。これから恋雅亭どうしよう、手伝ってきたメンバーは寄席の運営については素人ばかり…。

ノーギャラばかりの5〜6人がいくらか議論しても名案が浮かぶわけがなく、いちばん早くから楠本さんを手伝ってきた私を旗振り役に、とにかく恋雅亭をつづけて行こうということになったんです。

出演者名を書いたりビラめくりの高座当番は噺家に、舞台設営やチケット販売は格安で神戸風月堂さんをお願いする、出演者へのお礼とパンフレット代をお払いする、収支は年末にノギャラメンバーで何とか打ち上げするのが精いっぱい。

出演者の手配は、桂春駒さんにお願いしますが、これが難しい。上方落語界には笑福亭米朝・文枝・春団治・露の五郎・林家染丸と6つの流れがあります。出演は6人で、ひとつの芝居を6人でやるみたいなもの。舞台は初めに盛り上げ、中入りでちょっと下がり、あとひとつと盛り上げるのが最高で、中入りで一門のカラーが違いますから、みな活かされるような構成にせなアカン。一門会、独演会が多い中どの一門にもこだわらない落語会ほかにない。言われるようになりまし。

だしものは、楽屋にあるネタ帳をみて「話がつく」様なものないように調整します。お酒の話なら同じようなくすりが入る。だから舞台が同じような話はうけない。演者はつく話、分かってますから。あまり笑わなくてもよく笑ってもらえなく。常連の「べたな客でもよく笑」にはよう受けます。

噺家さんは、みな恋雅亭の高座にあがりたけれど、ここまででなら出られない伝統みたいなもの、楠本さんが作り上げてこられていたんです。(タウンニュース第158号、吉村高也さんインタビューより)

もとまち寄席・恋雅亭は令和2年4月、ホール運営休止のため500回を機に閉幕する



閉会で会える吉村高也さん(右)と落語家の桂春蝶さん(1月11日・神戸新聞)